



## talk! talk! talk! タレント・英玲奈さん



### タレント 英玲奈さん

毎週土曜日に放送の情報番組「王様のブランチ」のリポーターとして活躍中のタレント・英玲奈さん。モデルの仕事がきっかけで写真に興味を持ち、専門学校にも通ったという経歴を持つ彼女は、大のネコ好き。"ネコが撮ったようなネコの写真"を撮りたいと目を輝かせる。写真を本格的に学んだ学校での思い出や、これからの夢、さらにネコを撮るための方法までたっぷり語っていただいた。

#### プロフィール

えれな。1983年神奈川県生まれ。高校生時代にスカウトされ、雑誌モデルとしてキャリアをスタートさせる。現在はドラマ、バラエティ、舞台、映画などで幅広く活動している。  
主なドラマに「女刑事みずき 京都洛西署物語」（テレビ朝日系）「踊る親分探偵〜京都阿波踊り殺人事件〜」（フジテレビ系）など。主な映画に「アニムスアニマ」（斎藤玲子監督）「パローレ」（前田哲監督）「仮面ライダー龍騎」（田崎竜太監督）「青い春」（豊田利晃監督）など。  
現在「王様のブランチ」（TBS系）「レーシングネット」（グリーンチャンネル）「三菱自動車」「花王ケープ」のCM「NTTファイナンス」の広告に出演中。

## Beginning 出会い

### 撮られる側から撮る側へ

写真に興味を持ったきっかけは何ですか？

高校1年生の頃からモデルの仕事をしていて、撮られているうちに自分でも撮ってみたいなと思い始めました。それで高校を卒業したあと、写真の専門学校に行きました。

趣味で写真を撮るのではなく、きちんと勉強しようと思ったんですね。

はい。高校の頃も実家にあったF70で写真を撮って学校で写真展もしていたんですが、モデルの仕事を通してプロの写真と触れることで、思い出写真じゃない、ちゃんとした作品としての写真に興味がありました。

専門学校ではどういった写真を撮っていたのですか？

主にセルフポートレートとネコですね。卒業制作もそのふたつをテーマにして、6×7判のカメラ、一眼レフカメラ、コンパクトカメラといろいろ使い分けて撮っていました。

なぜそのテーマにしたのですか？

2年間撮ってきたものがそのふたつだったんです。セルフポートレートに関しては、モデルの仕事をしているときに「自分でメイクもスタイリングもライティングも撮影もしてみたい!」と思っていたので、自然とテーマになりました。ネコに関してはもうとにかく大好きなんです!

撮りたいと思うものがはっきりしていたのですか。

いえ、学校でいろいろ勉強する中で気づいたんです。風景を撮影したり知らない人に声をかけて撮影するという課題が出たときは、撮影したものを「現像したい」とあまり思えなかったんです。自分の知っている人や好きな動物を撮ったときの方が、どんなふうに写っているんだろうと思う気持ちが強かったんですね。そういったことを経験して私が撮りたいものは自分の身近なものだったり、好きな動物だなど思うようになったんです。

今回掲載する写真はカラーですが、ずっとカラーで撮っていらっしゃるのですか？

そうですね。学校で白黒も一通りやりましたが、2年目はほとんどカラーで撮っていました。どういふ写真が撮りたいのかというと、見てくれた人がホッとしたり、安心したり、幸せになれる写真なんです。白黒だとどうしても強さやシャープさが強調されるし、プリント作業がカラーより白黒の方が難しく感じたので、見切りをつけたという部分もあります（笑）。

専門学校生活で大変だったこと、楽しかったことはありますか？

大変だったのは、4×5の扱い方ですね。あおりを理解するのが難しかったです。あと人を撮ることの大変さがわかりました。誰かをモデルにして撮影するということは体力も気力もすごく使うし、必死になって汗もかいて、本当に大変なんだ!と思いました。撮るより撮られる方がずっと楽なんだと気づきましたね（笑）。仕事ではただ撮られていただけだったものが、自分の撮りたいものを撮って、好きな写真をセレクトして、自分で焼きたいように焼く。全部初めから終わりまで自分でできるというのが楽しかったですね。

## Pleasure 楽しみ

### 英玲奈さんが教える 上手なネコの撮影方法

本格的に写真を学んでみて、自分の中で何か変わったことはありましたか？

仕事での意識は変わりましたね。撮る側の大変さがわかるようになったことで、モデルの仕事をする際などにフォトグラファーの方に協力できるようになりました。

あと写真を学んでということではないのですが、専門学校に行って仲間ができたことで、自分のことが見直せた気がします。私は高校生の頃から仕事をしていて、働くということがどういうことかを知っていたので"あきらめないといけないこともある"なんて、少し遠くからものを見てしまうことがあったんです。でも、学校で出会ったみんなは絶対カメラマンになるって強い思いがあって、やる気や前向きさをすごく感じたんです。夢や目標をそれぞれがちゃんと持っているし、頑張ってる姿がとても刺激になりました。やりたいとか、なりたいたとか、強く思うことって大事なんだなって思えるようになりました。

なるほど。写真を思う仲間たちが英玲奈さんにいい影響を与えてくれたんですね。

そうなんです。私はフォトグラファーさんとお仕事していたこともあったので、本当に一握りの人しか成功しないって知っていた。でも現実がそうであったとしてもみんなはあきらめないし、結果はわからないんだから！ っていう情熱があって。なりたいたいという意思を大切にしないと何も始まらないということを教えてもらいました。

現在も先ほどお話に出たように、身近なものや動物を撮ることが多いのですか？

そうですね。ネコが一番多いと思います。自分で飼っているネコはいつも撮りますし、外ネコが多く住む街に写真を撮りに遠出したりもします。写真を撮ろうと思っていなくても、ネコアンテナは常に張っていますね（笑）。私はネコを見つけるのがうまいと思いますよ。空気でわかるんです。ここに絶対ネコいる！みたいな感じで。ネコの気持ちもわかる気がします。

そう言われると、英玲奈さんはお顔立ちも雰囲気もネコっぽいかもしれません（笑）。

よく言われるんですよ。ネコになりつつあるのかも……。すごくビックリしたりすると思わず「ニャ！」って言っちゃいますし（笑）。

ネコを撮るときにポイントとしていることはありますか？

まずは人を撮るときと同じように、話しかけてお願いするんです。ネコもいきなり撮られていい気はしないじゃないですか。突然シャッターを切ったら「誰!？」ってなりますからね。ちゃんとお願ひしたら、次に褒めます。たとえば模様とか、毛並みとか、ヒゲが立派だねとか、そのネコを見た感想ですね。もちろん敬語ですよ。以前フォトグラファーの岩合光昭さんと一緒にネコを撮影する仕事をしたことがあるんですが、岩合さんもネコに「やあ」って話しかけていましたから、この方法は間違いないです。

なるほど。参考になります！ その方法でネコの心をつかむんですね。

はい。やっぱり話しかけることが一番重要ですね。あと、追いかけて待つことも大事だと思います。オスのネコは体の大きさを見せつけてくるので撮りやすいみたいです。いろいろなネコの写真を撮らせてもらっているうちに、どうすれば撮らせてくれるのか少しずつ分かってきました。今も日々勉強中です。私はネコがネコを撮ったような写真が撮りたくて、自分もネコになって撮るんです。気がついたら泥だらけ傷だらけなんてこともしょっちゅう。ネコがいたら必ず話しかけるし、とにかく夢中になってしまっんです。一緒にいる人からは迷惑がられますけどね。また始まったよ.....という感じにあきれられています（笑）。



---

## Photo's 作品紹介

セルフポートレートにネコに 英玲奈さんの世界観を表現する写真

---



セルフポートレート（5年前です）



セルフポートレート (5年前です)



ネコ



ネコ



ネコ



ネコ



ネコ





ネコ



ネコ

---

## Future これから

### 日常を愛するために、大切にするために撮る

写真を撮っていて楽しいと思う瞬間はどんなときですか？

シャッターを押したときにこの写真は絶対いい！と思えた瞬間はすごく楽しいですし、写真を撮ることで人とも動物とも仲良くなれる、コミュニケーションがとれるのもいいですね。それに、たまにびっくりするくらい予想外のものが撮れていたりしますよね。そういうミラクルな写真が撮れたときは本当に楽しいですね。

今日お持ちいただいた写真は引き延ばされてポートフォリオに入れられていますが、撮った写真はきちんと整理して保存されているんですか？

だいたい撮ったものは六つ切りに伸ばしてプリントすることが多いですね。あとはL判の写真をカラーコピーで伸ばしたりもします。シャープな写真よりも、少し粗い感じの写真が好きなので、カラーコピーの質感はちょうどいいなと感じるんです。

確かにシャープでカチッとしているのではなく、やわらかい雰囲気の写真が多いですね。

はい。基本的に動きのある写真が好きで、ノーファインダーで撮ることも多いのでブレもピンとも気にしないんです。私はプロではないから、うまい写真ではなく自分が好きな写真が撮ればそれでいいと思います。写真は結局、うまいとか技術があるということが重要なのではなく、自分が、何を持っているか、それをどう表現できるかということが一番大事になると考えています。

写真の魅力は何だと思いますか？

やっぱり写真には目に見えづらいものが写る。写真にしたからこそ、ちゃんと意識して見られたとか、見えてくるものってあると思うんです。それが面白いですね。何気なく生活していると、見過ごしてしまうものってとても多いと思うんです。でも日常を写真に撮ること、見過ごしがちなことを見過ごさずに、大事にしていけると私は思います。

写真を撮ることで、日常を大切にすることができるんですね。英玲奈さんにとって写真はどんな存在ですか？



そうですね.....、大事なものを再確認させてくれるものですね。撮っているときは、何も考えず感覚にまかせて夢中になっているんですが、プリントして見返したときに「ああ、やっぱり私はこれが好きなんだな」と気づくんです。自分が今、何が気になっているか、好きなのかっていうことを教えてくれる気がします。あらためて日常を愛するために、写真を撮っているのかもしれない。

これから写真で挑戦したいことはありますか？

一番やりたいことは檻がないところで動物を撮ることですね！動物園だと私と動物の間には壁ができてしまうので、アフリカなどに行って檻をはさまずに写真が撮りたいです。象とかキリンとかライオンとかいるいるな動物と間近で触れ合いたいですね。あと、世界中の動物園に行きたいという夢もあるんです。まずは、日本の動物園の制覇を目指します！

[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.